

令和5年度奨学生 留学体験記

『世界の果て』の国に来て7ヶ月が過ぎた。着いたときは途方もなく感じた10ヶ月ももう終盤にさしかかっている。振り返るとこの7ヶ月でたくさんの経験をした。

日本に帰りたくないと思うくらい楽しかったこともあれば、なんで留学なんてしたのだろうとネガティブになることも多々あった。それでもすべての経験に共通して言えることは‘日本では経験できないこと’である。

私は周りの影響で小さい頃から海外に興味があり、高校生になったら留学したいと考えていた。そんななかで高校生になり母から AFS を勧められてやっと留学できるのだとすぐに応募した。私はスペイン語を学びたいと考えていたので中南米諸国の情報をネットで調べた。それで私の興味を最も引いたのがチリだった。地球の間反対がどんな世界なのか知りたいと思ったのだ。出発前も周りの人から「なんでチリ？」と散々聞かれたが、それはチリに着いてからも同じで、みんなに「なんでチリ？」と聞かれた。しかし私はチリに来て後悔してない。

チリはとても魅力的な国である。教室にもバスにも家にもあらゆるところに常に音楽があり誰か歌えばみんなが歌ったり踊ったりする。外ではいつでもアンデス山脈の雪化粧が見られる。誕生日は親戚が大集合してみんなでお祝いするし春や夏にはアサードというバーベキューを毎週のようにする。食べ物はおいしく、おいしい果物も安く手に入る。

これだけ話しているとキラキラした留学生活に見えるだろうが辛いこともたくさんあった。私の主な問題は言語の壁と、もともとのシャイな性格のせいでコミュニケーションがうまくとれなかったことである。チリ人は話すのが速く、チリ独自の単語もたくさん使うのでそれに慣れるのにすごく時間がかかった。それで何を言っているのかわからず黙ってしまうことが多々あった。ある日ホストマザーは私に「話してくれないと何を考えているのかわからないよ、失敗してもいいからたくさん話して経験を積み重ねるのが大切だよ。」と言った。

その言葉のおかげで私はもっと話そうという気持ちになって、少しずつ積極的に話せるようになった。それでもまだ思っているように話せないことがあるので、残りの時間もたくさん話すことを目標にして、『世界の果て』の国での生活を存分に楽しみたい。

(2024年2月～2024年12月(予定)で留学中)

